森林ふれあい情報

平成２３年　１月
第　１７　号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター
〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1
TEL:0264(22)2122　FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

森林ボランティア・NPO連携推進会議

中部森林管理局管内の森林ボランティア団体やＮＰＯが一堂に会して資質の向上と連携を深め、併せて市民へ森林づくりの理解を図るイベントが１０月１・２日と松本市のアルプス公園において実施されました。

一日目は１８団体が６班に分かれ、活動報告やフリートークによる意見交換会を行い、二日目は一般市民を対象に自然とふれあう１１のワークショップが展開され、子供達を交えた竹とんぼ作りや丸太切りなどで秋の一日を過ごしました。

各団体の活動報告

穴を開けて鉛筆立てを作ります

このイベントは、当ふれあいセンターと指導普及課が事務局となり、森林ボランティア団体等の代表からなる実行委員会を設置して準備を進めてきたもので、好天に恵まれ延べ千人の市民が各種の体験を満喫していました。

ふれあいの森造成

特定非営利活動法人　地球緑化センターでは各地で森林を守り育てる活動していますが、赤沢にも樹齢３００年の森林造りを目指し「ふれあいの森」を設定して１０年に亘り森林整備をしています。

今年も春に続き二回目の間伐作業が１０月２・３日と二日間実施されました。初日は前記のボランティア会議のため参加できませんでしたが、二日目に所長が参加して３０名の参加者に間伐の作業手順や安全指導などを行いました。

作業前の安全指導

木祖村・日進市合同育樹祭

木祖村と愛知県日進市は、木曽川が取り持つ縁で友好自治体提携を締結して交流活動をしています。

木曽森林管理署小木曽国有林には「市町村の森」として「平成日進の森」が設定されており、１０月１６日に日進市の市民約１００名が参加して育樹祭が行なわれ、１３年生のヒノキ林にクマの皮剥ぎ防止ロープ巻きをしました。

当ふれあいセンターでは管轄の森林官と協力してクマの被害対策に対応したロープの巻き方などを指導しました。

これでクマ剥ぎ対策は万全

低コスト・高効率作業システム 現地検討会

地球温暖化対策として、二酸化炭素を吸収する森林整備が急務となっており、人工林の間伐が進められています。間伐を推進するためには、低コストで効率の良い伐採・搬出作業システムの確立が重要となります。

１０月２０日は、木曽森林管理署奈良井国有林において高密路網と高性能林業機械を組み合わせた作業システムの現地検討会が行われ、当ふれあいセンターでも出席して効果を実感しました。

作業道のルート設定がコスト低減のカギ

木曽地方は傾斜が急峻で高性能林業機械の導入は難しいと思われていましたが、フォワーダの機能を考慮した搬出ルートの設定や、引き上げによる効率の良い集材システムの構築など、関係者の工夫が感じられました。

間伐により林内照度が改善され、主林木の生長のみならず生物多様性が高まることが期待されます。

作業道の雨水処理にも配慮

未来世紀へつなぐ 緑のバトン どんぐり祭

昭和５９年の長野県西部地震で崩壊した、木曽川上流域の森を再生する取組が、多くのボランティアの手により続けられています。

この取り組みは、中日新聞社などでつくる実行委員会が主体となって、水の恩恵を受けている下流域の住民と、地元のボランティアが協働して活動しているもので、１０月２３日から二日間の日程で行われ、初日は王滝村の被害地に肥料木として植えられたハンノキ等の除・間伐を行い、二日目は災害に強い広葉樹の森造りを目指して、ミズナラの苗を育成するドングリ拾いをしました。

生物多様性を図る小鳥の巣箱掛けも行われ、当ふれあいセンターからは藤田自然再生指導官が出席して、小鳥が利用しやすいように３０名のボランティアに指導しました。

小鳥の営巣を願いつつ

長野県西部地震跡地の植生調査

長野県西部地震跡地は、災害の爪痕が分からないほど緑が回復しつつあります。

当初、被災地に有機質を増やす目的で肥料木としてハンノキを植えましたが、２５年を経過してハンノキの間に木曽本来の植生回復のために植えたヒノキ等を被圧する状態になりました。

肥料木としての機能を持たせたまま、後継樹に照度を確保するハンノキを幹の中断で間伐する試験地を設定して生長調査を継続しています。

後継樹の照度が改善して生長も良好

ハンノキは伐採しても萌芽して、肥料木としての機能を維持すると予想していましたが、二年目には雑菌の侵入により枯死するケースが多く、切断する位置や雑菌の侵入を防ぐ対策が新たな課題となりました。

雑菌の侵入で枯死した間伐二年目のハンノキ

城山史跡の森歩道新設

城山史跡の森倶楽部は城山国有林に設定されている、史跡の森を活動拠点としている団体です。

総会の折に、史跡の森をもっと町民に利用してもらうために、主要な景勝を結ぶ歩道を新設したいとの強い要望があり、新設作業が行われ１５９メートルの歩道が完成しました。

１１月２０日は小春日和の好天に恵まれ、１５名の会員が歩道の新設に汗を流しました。

利用者の増加を願って

作業を終えて記念撮影

当ふれあいセンターでは、ルートの設定から測量、各種手続きで支援をしていて、この日も会員と一緒に唐鍬を振るいました。

予定より早く作業が終了したので、春先に掛けた小鳥の巣箱を回収して山を下りました。回収した巣箱は傷んだ部分を修理して春には再び元の木に掛けることにしています。

巣箱の回収・営巣確認

高枝打ち鋸による枝打ち作業

余談になりますが、城山が史跡の森倶楽部をはじめ、地域住民に親しまれているのには理由があります。

江戸時代木曽地方を納めた山村氏は、子弟に学問を奨励したため、こぞって江戸へ遊学する気運がありました。

その頃、城山にはマルバノキが多く自生していて、春は若葉、秋は紅葉と季節に先駆けて趣を変えるマルバノキに、江戸へ子供を旅立たせた母親は、一日も早い修学を重ねて待ちわびたとのことです。

現在、城山の麓にある福島小学校の校章は、マルバノキの葉をモチーフにしています。

チッパーのフル稼働

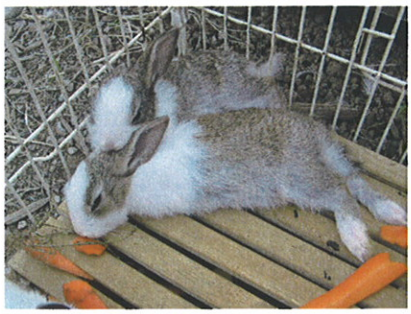
赤沢自然休養林中央園地の環境整備

木曽森林管理署管内赤沢自然休養林は、森林浴発祥の地として人気があり、今年も１４万人に迫る来園者がありました。１１月７日には今シーズンの営業も終了して、山の静けさが戻っています。

１１月２６日は、来シーズも多くの来園者を迎えるために、国有林関係者や赤沢を活動の場としている団体が、中央園地の環境整備を行いました。

見通しが悪い薮を刈り払い、枝の張った樹木の枝打ちをしてチッパーにかけ、歩道等に敷く作業をして初冬の一日を終えました。

当ふれあいセンターでも、赤沢自然休養林を主要な活動の場としているため、今年の安全な活動を感謝しつつ、除伐木の運搬やチップ敷に汗を流しました。

編集後記

新年明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願い致します